

シンポジウム「キラル振動分光法の基礎と最新技術」のお知らせ

振動分光によるエナンチオマーの識別は、発色団を持たない分子にも適用できる有力な方法である。従来のキラル振動分光法である赤外円二色性(VCD)やラマン光学活性(ROA)は、その装置の完成度が向上し、測定スペクトルと絶対配置との関係性についても理論計算によって高い精度で予想できるようになりつつある。一方でコヒーレントラマンや和周波発生過程を利用した新しいキラル振動分光法の開発も進みつつある。このシンポジウムでは、成熟した手法である VCD と ROA の基礎と最新の応用例、さらに新しいキラル振動分光法である CARS-ROA 分光法とキラル振動和周波発生分光について解説・議論する。

主催：日本分光学会 赤外ラマン分光部会

開催日時：2017年11月21日(火)

開催場所：青山学院大学 青山キャンパス 総研ビル(14号館)9階 第16会議室

<http://www.aoyama.ac.jp/outline/campus/aoyama.html>

参加費：学生1,000円、一般会員：2,000円、一般非会員：3,000円

プログラム開催場所：

10:00-11:00	赤外円二色性(VCD)による生体分子の立体構造解析	門出健次(北海道大学)
11:00-11:45	振動円偏光二色性(VCD)分光光度計の基礎と最新の応用事例	渡邊敬祐(日本分光)
11:45-13:00	昼休み	
13:00-14:00	ラマン光学活性分光の基礎と生体関連分子への応用	海野雅司(佐賀大学)
14:00-14:45	市販型 ROA と最新キラルアナライザー	野添 望(コーンズテクノロジー)
14:45-15:00	休憩	
15:00-15:45	コヒーレントラマン散乱を用いた ROA 分光法	平松光太郎(東京大学)
15:45-16:30	振動 SFG 分光によるバルクおよび界面のキラリティ検出	石橋孝章(筑波大学)

申込方法：当日参加も可能ですが、会場準備の都合上あらかじめ申込の電子メールをお送りいただくと助かります。申込のメールは、題目を「キラル振動分光法シンポジウム申込」とし、氏名、所属、学生・社会人の別、分光学会会員の場合は会員番号を記載の上、下記までアドレスまでにて11月16日(木)までにお申し込みください。

申込・問合せ先：石橋孝章，筑波大学 数理物質系，e-mail: ishibashi.takaaki.gn@u.tsukuba.ac.jp

学内問合せ先：坂本 章，理工学部 化学・生命科学科，e-mail: sakamoto@chem.aoyama.ac.jp